

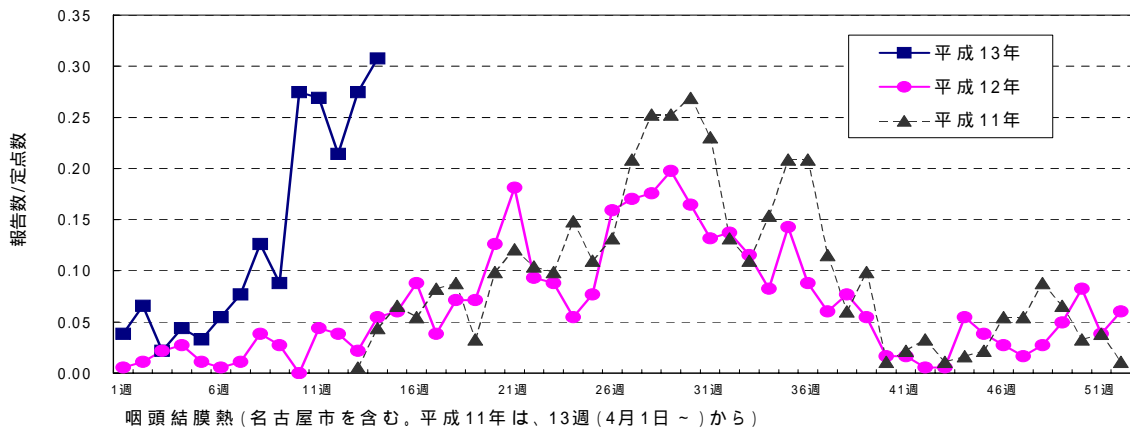
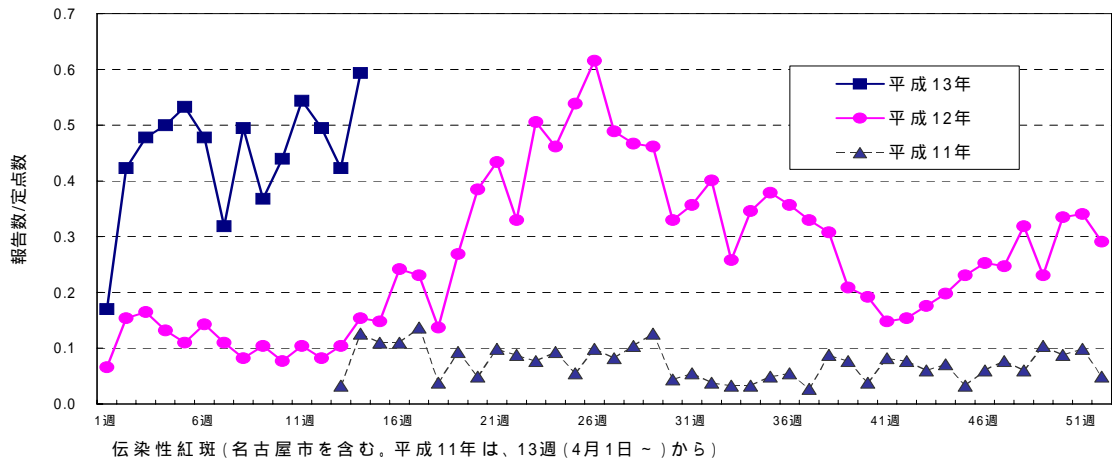
愛知県感染症情報

平成 13 年第 14 週（4 月第 1 週）

（コメント）

インフルエンザは終息に向かっています。

伝染性紅斑、咽頭結膜熱及び流行性耳下腺炎は、昨年に比べて報告数の多い状況が続いています。



（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 麻疹 2例

感染性胃腸炎 まだあります

ムンプス 6歳女、水痘 5歳女 ワクチン歴あり

（一宮市 あさのこどもクリニック）

- ・ マイコプラズマ肺炎 5歳女

（一宮市 後藤小児科）

- ・ 病原性大腸菌陽性者（0-1 2歳女、0-15 1歳女、0-25 3歳男、0-86a 9ヶ月男と9歳女）
（尾西市 城後小児科）
 - ・ インフルおちついてきました。リンゴ病（伝染性紅斑）散発。
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）
 - ・ 比較的軽症な感染性胃腸炎が増加してきました。水痘、流行性耳下腺炎の小流行が続いています。
（江南市 みやぐちこどもクリニック）
 - ・ 水痘 36歳男
流行性耳下腺炎 35歳男
（師勝町 師勝クリニック）
 - 尾張東部地区
 - ・ インフルエンザはまだ残っています。インフルエンザ23名中、B型インフルエンザと考えられるのは5名ありました。
マイコプラズマ肺炎 4歳女
水痘、伝染性紅斑もみられます。
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
 - ・ インフルエンザは、まだ小流行続いています（家族内感染あり。母 姉 妹 弟）。成人にタミフル^{*1}著効。小児のアマンタジン^{*2}もほぼ有効。流行性耳下腺炎、溶連菌流行あり。水痘の再び流行のきざしあるようです。
病原性大腸菌 0-18 1歳女、0-1 36歳男検出。
（尾張旭市 佐伯小児科医院）
- 注）タミフル^{*1}：A・B型インフルエンザ治療薬
アマンタジン^{*2}：A型インフルエンザ治療薬。
- ・ 7ヵ月、11歳の麻疹2例（ワクチン未接種）。インフルエンザ（OIA*陽性）増しています。
（春日井市 朝宮こどもクリニック）
- 注）OIA*：A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する。ただしA・B型の区別はできない。
- ・ 3月より年長児のムンプスの流行が続いています。
（春日井市 かちがわ北病院）
 - ・ インフルエンザ、咽頭結膜熱が多いようです。
（小牧市 鈴木小児科）
 - ・ インフルエンザ減少、ムンプス・伝染性紅斑あり。
（小牧市 小牧市民病院）

- ・ 年長児のロタウイルスがかなり多く見られます。インフルエンザ筋炎 1 例。

(小牧市 志水こどもクリニック)

- ・ カンピロバクター腸炎 3 歳男
水痘と流行性耳下腺炎の合併 6 歳男
ロタ腸炎 1 歳女
(東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ カンピロバクタ - 腸炎 8 歳女、ロタウイルス腸炎 1 歳女
感染性胃腸炎 1 歳女
水痘 (男 ~ 12 ヶ月 (2 例) と 2 歳、女 1 歳と 4 歳と 7 歳)
伝染性紅斑 女 8 歳
突発性発疹症 (男 ~ 12 ヶ月と 1 歳 (2 例)、女 1 歳)
流行性耳下腺炎 (男 7 歳と 10 ~ 14 歳 (2 例))
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

- ・ 伝染性単核球症 1 例
インフルエンザ A 6 人
(豊田市 やふそ小児科)

- ・ インフルエンザも終息のきざしです。
(岡崎市 花田こどもクリニック)

- ・ 病原性大腸菌 O-1 (+) VT1・2 (-) 3 歳女
マイコプラズマ肺炎 3 歳
(岡崎市 にいのみ小児科)

- ・ 流行性耳下腺炎目立ちます。
髄膜炎合併 2 例あり (4 歳男、8 歳男)
(碧南市 永井小児クリニック)

- ・ インフルエンザ、感染性胃腸炎ともに減少傾向です。
(西尾市 山岸クリニック)

- ・ FluA* 陽性 5 歳女 (ワクチン接種済)
(西尾市 やすい小児科)

注) FluA* : A型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

- ・ ムンプスが流行しています。
(三好町 三好町立三好病院)

● 東三河地区

- ・ まだ、インフルエンザの子が時々います。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

- ・ 麻疹あり（単発）。感染源不明。
（田原町 かわせ小児科）

（1～3類感染症の発生状況）

報告はありません。

（全数把握の4類感染症の発生状況）

急性ウイルス性肝炎B型患者1名。

第12週（平成13年3月19日～3月25日）の4類感染症の全国状況
インフルエンザの定点当たり報告数は前週より減少している。過去5年間の同時期と比較すると、インフルエンザの定点当たり報告数はやや多くなっているが、これは例年よりも流行のピークが遅れているからである。定点当たり報告数の現時点でのピーク値は、流行の大きかった95年や98年と比較しても、5分の1以下となっている。流行性耳下腺炎と水痘は、過去5年の同時期と比較してかなり定点当たり報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数7.3、熊本県で5.3となっており、水痘は沖縄県で7.6、宮崎県で5.4、山口県で4.3と多くなっている。麻疹は例年の同時期とくらべて定点当たり報告数がかなり多く、高知県で2.6、大分県と熊本県で2.2となっている。流行性角結膜炎は愛媛県で定点当たり報告数4.3、奈良県で3.8と多くなっている。咽頭結膜熱、手足口病はオフシーズンとしては例年になく定点当たり報告数が多くなっている。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

2001年3月9日号(76巻10号)

黄熱病。ブラジル。アマゾン河流域のブラジル中央部で9例発病、ウイルス学的・血清学的に確認。6例死亡。同国厚生省の疫学専門家と地区保健担当チームによる調査と予防接種キャンペーン展開中。

エボラ出血熱。ウガンダのその後。2月28日で発生は終息。医療関係者を含め死亡例は224例であった。

コレラ。南アフリカのその後。3月3日時点で62,607例(死亡131)。

住血吸虫症と土壌で媒介される寄生虫感染症。経済的に問題があり衛生状態不良な開発途上国を中心に世界全体で20億の感染者があり、うち3億が重症感染者である。住血吸虫症では肝硬変や膀胱癌などの予後不良な疾患が問題になり、鉤虫症では(特に女性で)重症の鉄欠乏性貧血が問題となる。本報は地域単位の対策(例:高度汚染地区では2010年には小学生の75%に抗寄生虫剤投与)についてのコメントである。

インフルエンザ(01年2月):オーストリア、エジプト、フィンランド、スペイン、ユゴスラビア;いずれもA(H1N1)。ノルウェーでは流行株検索中。

3月2-8日届出疾患:コレラ。ザンビア、南アフリカ。

2001年3月16日号(76巻11号)

麻疹。韓国:00年3月から01年1月までに血清学的・ウイルス学的に確認されている麻疹の流行が同国東部から全国に伝播、死亡6例を含む39,537例の届出があり、01年1月だけでも7,499例が報告されている。韓国厚生省は発生状況の把握、地区住民の教育と小学校入学時の各小児の予防接種実施状況の厳しいチェックを展開中。

黄熱病。ブラジルのその後:3月6日時点で35例(死亡6)届出。死亡6例を含む11例が血清学的に確認、他の例についても検査実施中。発生地区における戸別訪問による予防接種活動展開中。

髄膜炎菌髄膜炎。アフリカ、サハラ砂漠南縁諸国のその後:01年2月~3月上旬までにベニン2,239例(死亡122)、ブルキナ・ファソ1,555例(死亡301)、カメルーン270例(死亡17)、チャド2,317例(死亡267)、エチオピア1,348例(死亡108)がWHOに届出られている。

マラリア。WHOの撃退作戦:マラリア常在地区におけるWHO地域に応じたマラリア撃退作戦の展開状況のまとめ。

ポリオ。急性弛緩性麻痺(Acute flaccid paralysis, AFP)患者届出数の世界各国全数一覧表。00年~01年3月。野生株によるポリオ患者数がアフリカのコンゴで24例、アンゴラで55例、アジア地区のアフガニスタン25例、パキスタン167例、ソマリア43例、インド264例が目立っている。

インフルエンザ(01年3月):クロアチア、香港、アイスランド、ノルウェー、ルーマニア。いずれも流行の主体はA型。

3月9-15日届出疾患:コレラ。ミクロネシア。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

新学期が始まり学校が賑やかになりました。人事異動の挨拶に来ていただいたり、転勤の挨拶状が届く昨今です。本年度もよろしくお願ひします。いつも貴重な情報を有難うございます。3月後半のまとめをお送りします。

1.名古屋市内：インフルエンザの発生が小規模散発的ですが続いている地区と峠をこえた地区がありますが市全体としては落ち着いた傾向があります。主流はベッドサイドの迅速テストキットでA型陽性、陽性材料から衛生研究所でウイルスが分離されていて主体はA型（H1N1）で一部B型です。発生状況は地域的小流行や家族内発生、保育所や小中学校の小規模発生で小学生に多く、一部の地区では小学高学年と中学生、要入院例や肺炎合併例、高熱と長時間の意識障害・脳浮腫を伴う熱性痙攣の例あり、A型とB型に症状の差はない、ワクチン接種による症状の軽減効果はみとめられない、などのご報告をいただきました（第一日赤有吉先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、名東区高橋先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。ロタウイルスを中心とした感染性胃腸炎が相変わらず発生中で脱水から入院を要する例が目立ちますが、地区によってはロタウイルス陰性例やアデノウイルス陽性例が多いという報告もいただいています（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、名東区高橋先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。溶連菌感染症、扁桃腺炎、発熱の続く感冒、細気管支炎、仮性クル-ブ、マイコプラズマ感染症を含む急性肺炎、靱部リンパ節腫脹と発熱など各種の気道感染症が散発的に発生しています（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、名東区高橋先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。水痘、ムンプス、伝染性紅斑の小規模流行が各地区で続いていてムンプス髄膜炎が目立つ地区もあちこちに見られます（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、名東区高橋先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。三菱・岩間先生からは病原性大腸菌O1による感染性腸炎の入院例の報告もいただきました。麻疹が散発的ですが市内各地区で発生、新学期を迎え流行が心配です（第一日赤有吉先生、千種区今枝先生；3歳のワクチン未接種男児、中京・柴田先生、労災・山田先生）。今後の流行が要注意です。

2.尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、ムンプスが多発中で咽頭結膜熱、伝染性紅斑が散発中、昭和病院西村先生からは麻疹が同時期に同地区で主にワクチン歴なしの学童で発生、ロタウイルス腸炎の入院例目立つ、常滑市民病院上田先生からはインフルエンザ、ロタウイルス感染症、ムンプス（髄膜炎あり）、流行性結膜炎、水痘が流行中でA型肝炎1例あり、この地区でも麻疹が流行していて要入院ありとのお手紙でした。

3.三河地区：トヨタ病院木戸先生からはロタウイルス、インフルエンザ（B型？）、RSウイルス流行中でこれら疾患で入院例が目立つ、加茂病院梶田先生からはインフルエンザやや増加、RSウイルス感染症とロタウイルス下痢症が散発、岡崎市民病院系洲先生からはインフルエンザA、Bが散発、川崎病が再度流行し再燃例3例あり、安城更生病院小川先生からはインフルエンザと水痘が散発中、知立市近藤先生からはムンプスと水痘が小流行中で病原性大腸菌O6が2例、インフルエンザAがやや多く高熱と胃腸症状の年長児目立つ、刈谷市田和先生からはインフルA陽性者は週あたり3～4名、水痘とムンプスが散発、胃腸炎やや目立つ、碧南市永井先生からはインフルエンザ散発、ロタウイルス感染症時々、豊橋市からは嘔吐下痢症、カンピロバクタ-腸炎、伝染性紅斑が目立つとのお手紙でした（長屋先生、宮澤先生）。有難うございました。